

災害救援の実践と訓練



払った枝をトラックに積み込み



玉切りの実践を



胸骨圧迫を体験

災害救援ひのきしん隊（富山知一隊長）は、6月28日～30日の3日間、上川管内の旭川市と愛別町にて、道北ブロック（天龍、旭川、上川、紋別、天塩、宗谷支部）を対象とした平時訓練を実施した。参加者60名、実動延べ163名。

訓練は、北斗分教会（旭川市）と併設している旧さくら季節保育所を宿营地としてお借りし、ブロック内の連携強化を主に、連絡の徹底や職掌分担の確認を目的として行われた。

平時訓練 災害救援隊



チェーンソー刃の目立てのポイントを指導

宿营地では、刈払い機とチェンソーの取扱い講習を行い、エンジン始動、メンテナンス、チェンソー刃の目立てなど実施し、一時救命処置講習では、救命用人形を用いて意識確認、呼吸と脈の確認、胸骨圧迫、AEDの使用方法など、実技を通して受講した。

作業は、愛別町アウル森の森（北愛分所有）と陽愛分教会のそれぞれで、立ち木伐倒、枝払い、玉切、運搬や、刈払い機での草刈りと重機を使って伐倒木を収集し、キャリアにての運搬作業も行った。

期間中の食事は、上川・旭川



教祖140年祭

すべて喜び
すべておたすけ

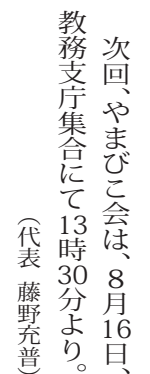
教祖 140 年祭 北海道教区スローガン

北海道教区



定例にをいかけ やまびこ会

布教を志す者の会「やまびこ会」では、7月16日、南7条西18丁目のなかよし公園を起点と



（代表 藤野充普）

次回、やまびこ会は、8月16日、教務支庁集合にて13時30分より。

その後のねりあいでは、この日の活動、また近況について振り返り、意見交換を行った。日ごろの布教活動や信仰生活の中で抱える悩みや疑問などについて話し合うことのできるこの時間は、にをいかけに歩くことと同様に、参加者にとって非常に有意義なものとなっている。

支部婦人会のご協力を得て、美味しい手料理をいただいた。解散式において、富松基成本部長は、「訓練を通じて得られる意思疎通の取れる体制が、実際の被災地での信頼ある活動に繋がり、また日々の信仰実践こそが災害救援の本来のあり方」と挨拶された。

日々の生活から人様に喜んでもらえるよう心掛けて通らせていただき、今後もひのきしんの実践と訓練が大切であることを再確認した。

して10名が戸別訪問にまわり、布教活動を行った。

北海道らしからぬ蒸し暑さの中、タオルで汗をぬぐいながら、にをいかけに歩く参加者。すぐに芽が出ることは少ない地道な活動ではあるが、必ず親神様、教祖は喜び下されていると心を勇ませ、約30分ほど訪問宅に、また街行く人に声をかけた。



戸別訪問

布教推進講習会

— 西海成人先生をお迎えして —

教区では、7月2日、支部長会議終了後の11時20分より、北海道教務支庁を会場に「布教推進講習会」が開催されました。今回の講習会は、道内各支部より38名の教会長、布教所長、布教師などが参加し、布教の志を新たにす貴重な学びの場となりました。

講師には、「布教の家愛知寮」寮長を5期務められた西海成人先生をお迎えし、ご自身が師と



布教推進講習会

質問に耳を傾ける
西海成人先生

仰ぐ恩師の一言を胸に歩まれてきた信仰の道、そしてコロナ禍という大きな節の中で布教の家をどのように立て直してこられたかというお話を皮切りに、日々の歩みの中で「今できることを、思い立ったらすぐ実行する」姿勢が、思いも寄らぬ導きや不思議な出来事を招いたとの体験談について語られ、参加者一同深い感銘を受けました。

昼食を兼ねて行われた「ねらいあい」では、参加者を6班に分け、各自の体験や悩みを共有し合う時間が設けられました。引き続き西海先生にご登壇いただき、各班から寄せられた質問にお答えいただく質疑応答の時間が持たれました。



係員研修会

基礎講座

● 係員研修会

基礎講座事務局では、6月29日、教務支庁において、係員研修会を開催させて頂きました。はじめに教区長先生よりお話を

先生はどの質問にも端的かつ明快にお応えくださり、そのお話に参加者は皆深く聞き入りました。

今回の講習会を通じ、改めて「やるべき時に、やるべきことを実行する」信仰姿勢の大切さを実感し、北海道教区における布教活動の更なる推進への一歩となる、意義深い一日となりました。

(担当 北山 元)

● 基礎講座

頂き、基礎講座にかける思いを聴かせて頂きました。

その後、講座当日同様に会場準備を行い、受講者にお道のにいが伝わるようにと、係員一人ひとりがシミュレーションを重ねました。研修会を通して係員同士が思いを共有することが出来たように思います。

7月13日、教務支庁会場において、今期初の基礎講座を開催させて頂きました。和田与志男先生を講師に、15名の受講者を



基礎講座

御守護頂き、当日は暑さ厳しい中でしたので、熱中症対策も講じながらの講座となりました。



初対面の受講者同士がにこやかに話をされていたり、受講後は笑顔の方や涙ぐまれている方、心温まる場面がたくさんありました。

後日には、未信仰の方から『もっと教理を深めたい』との問い合わせもあり、基礎講座を通して親神様、教祖のお働きを鮮やかに目撃させて頂きました。

今回の基礎講座は、11月30日(日)教務支庁会場となっております。教祖140年祭年祭活動仕上げの旬に、基礎講座をにいがけおたすけの一助にご活用頂ければと思います。係員一同心より御受講お待ちしております。

(事務局長 佐藤 元展)

明るく胸を張って

—千恵広支部長 鈴木栄—



千恵広支部は、千歳、恵庭、北広島市の3市からなり、教会の数は少ないですが、皆が家族のようにお互いをたすけ合い、勇んで活動している支部だと思います。

年祭活動の旬にあたり、「なんとか出来る事は、させていただこう」という思いからこの寄稿をお受けしました。

そこで何を書くかと考え、私事でございますが、わが家、教会の信仰の経緯について少しお話しさせていただきます。

私は信仰三代目にあたります。初代が頑張つて、東京にて教会設立のお許しを頂きました。しかし、戦時中に教会が全焼し、初代会長と後継者が出直したしました。二代目である父はまだ若く、教会を継ぐことはできず、大教会にお願いして名称をお預けし、所属変更の上住み込み人となりました。

その後、父は自衛隊に入隊すると同時に、生活拠点を北海道へと移しました。信仰のなかった母と結婚し、姉、私、妹と三人の子どもを授かりました。私

が小学校1年生の時、生死の分かれ目とも言える大怪我をし、「良くて松葉杖、悪ければ植物状態」という診断を受けました。が、両親が一心にお願いしてくださり、不思議な御守護を頂きました。

両親が講社祭やよのもと会活動などを通して信仰していた中、またも私に身上障りのお知らせがあり、家族一同で真剣にお願いをしてくださり、私は無事に御守護を頂くことができました。後に母から、「この子はお道の信仰をする者にします」とお願いしたのだと聞かれました。

父は、いつか教会をお預かりさせて頂きたいという思いを持ち続けておりました。初代が設立した教会は、別の方が継いでくださっていました。そうした中、私たちが所属変更した先の教会が事情となったため、父が後任者となり、東京から現在の場所に移転して教会長の理のお許しを頂くことになりました。

しかし、父も私も教会生活については何もわからないままのスタートで、上級も遠方であつた

め、すべて支部の先生方に教えていただきながらの歩みでした。

また、父が教会長のお許しを頂いた時、私は高校3年生で、いろいろと尖つていた時期でもありました。

その後、私はおちばでの学生生活を終えまして、教会に帰ってからは父と毎日のように衝突しておりました。「これではしんどい、家を出よう」と思い、社会で働きに出て4、5年の間好きなように遊んでおりました。

関西のパチンコ店で働いていた時の事、母がこどもおちばがえりのひのきしんで詰所に来ており久しぶりに会いました。その時、父がおたすけしている方が、家族や兄弟にも見放されていたものの「退院したら修養科に行く」と言っているのを聞きました。その方は「絶対に退院はできない」と言われていたようですが、私は「もし退院できたら、付き添いは無理でも修養科に行くよ」と母に伝えたところ、それから1週間ほどで本

当に退院され、私は大変驚きました。

勤め先の店長に「辞めて天理に行きます」と伝えると、修養科の費用と3か月分の小遣いまで出してくれました。私は、自分

が言った言葉に神様がすぐに働いてくださり、私をお道に戻してくださったんだと感じてお

ります。

その後の大教会青年づとめ中は、良き仲間に出会うことができ、結婚をする事もできました。本部境内掛としてつとめた折は夫婦でおちばにて伏せ込ませていただき、4、5年後には教会長のお許しを頂きました。

しかし、ただ教会を守っているだけの会長職であり、これまでの年祭活動を両親が頑張つてきてくれたからこそ成り立っていたのだと、今になって反省するばかりです。

教祖140年祭活動の旬にあたり、仲間の勧めで二期講師をつとめさせて頂きました。「何もできなくても、教祖にもたれて通ればなんとかなるよ」と言われ、毎日教祖殿で拝をしている間、無の状態になりました。何の願

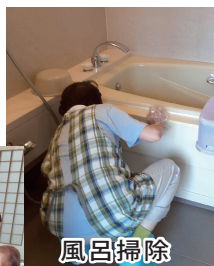
いもせず、ただ拝をして、時を過ごしていたように思います。毎日参拝していた時に、紹介していただいたある先生が一言「もたれている姿はわかるけど、もっと溺れるほどにもたればもっと良かったのに」とおっしゃいました。それでも、3か月間は私にとって大変良い経験となりました。

おちばの尊さ、ありがたさを実感し、残り少ない年祭活動を、明るく、胸を張って通らせていただきたいと思います。

●ふせこみひのきしん

教務支庁にて毎月29日

6月29日は、玄関、各会口、廊下、階段、トイレ掃除と大小会議室、神殿掃除、畳拭き、風呂掃除を行い、14名が参加下さいました。



風呂掃除



ひのきしん後にお茶休憩を

●毎月実施中

にをいがけ Walker 北海道

年祭活動の後押しをさせて頂きたいの思いからオンラインで、それぞれの場所での路傍講演、神名流し、戸別訪問、おつとめなどの実動をいたします。

詳細などは教区布教部まで。

支部主任スマイル交流会

婦人会

婦人会(奥村とう子主任)は、6月26日、おぢば教区事務所で支部主任スマイル交流会を開催し19名が参加した。



合い、お互いに婦人会活動の大切さを確認しあう事ができた。親睦会では、5年前の婦人会創立110周年のパレードで行われる予定だったよつちよれ等の余興もあり、新しい仲間との楽しい交流の時間となった。

女子青年交流例会

しらゆき会

しらゆき会(田村真衣委員長)は、7月12日、教務支庁にて女子青年交流例会。教祖140年祭に向けてを開催し、8名が参加した。

交流例会は、教祖140年祭に向けて、女子青年活動の意欲を高め、教祖のひながたについて学ぶ場として設け、5月、6月におぢばで行われた女子青年委員長講習会の内容を、各支部委員長と共有することを目的として開催した。

おつとめ、委員長挨拶につづ



逸話編を拝読

き、おぢばの講習会で、婦人會長様のお話を拝聴した内容を共有し、年祭活動の残りわずかの期間を、どのように通らせたいだくかと皆で改めて見つめ直した。また全員で逸話編を拝読し、教祖を身近に感じさせていた



その後、フラワールアレンジメントを全員で挑戦し、昼食後には、教務支庁周辺のゴミ拾いひのしんを行った。

「初めて参加してくださる方や遠方からも大勢参加していただけで嬉しく思いました。また緊張した空気も、フラワールアレンジメントやゴミ拾いひのきしんなどを通して和やかな空気で進めることができたと思います。今後も沢山の会員さんに参加してもらえるように企画を進めていきたいです。」と田村委員長がコメントした。

新教會長さん紹介

(令和7年6月お運び)

余市支部 蘭島分教会(敷島)

奉告祭 8月10日



酒井 進 氏 83 歳

空知支部 北空知分教会(那美岐)

奉告祭 9月14日



澤田 幸一 氏 78 歳

札幌北西支部 軽川分教会(敷島)

奉告祭 9月7日



武田 巳千郎 氏 52 歳

けいじばん

◎法律に関わる諸問題でご相談の方は弁護士を紹介致します。所属教会を通して教務支庁書記・渡部までご連絡下さい。

◎毎月26日に本部月次祭選擧式を午前10時より行っています。

北海道教務支庁日誌抄

7月1日	青年会 Meet1
2日	一手一つお願いづとめ支部長会議
	布教推進講習会
4日	札幌中南支部例会
7日	しらゆき会例会
12日	女子青年交流例会
13日	基礎講座教務支庁会場
16日	やまびこ会
20日	会計部会議
23日	網走大・陽気セミナー
26日	教区長帰本
28日	本部月次祭選擧式
29日	合唱団練習
	教区長帰庁
	少年ひのきしん隊
	本部練成会(8/2)
	教務支庁ふせこひのきしん

計報

立教一八八年・令和7年

元北海道教区主事

元宗谷支部長

五十嵐 仁様 6月26日出直(65歳) 男能寛分教会長 (宗谷支部)

五十嵐 キヌ様 3月8日出直(93歳) 男能寛分教会前會長夫人 (宗谷支部)

和田 正雄様 3月22日出直(87歳) 遠別分教会前會長 (宗谷支部)